

# 若者のラジオ聴取行動の変容とその背景に関する研究

栗國 遥大

本研究は、インターネット化や動画配信サービス、SNS など様々なメディアが普及する中で、若者のラジオ離れが指摘されてきた現状を踏まえ、ラジオというメディアがどのように変化し、どのように若年層に受け入れられているのかを明らかにすることを目的とした。特に、スマートフォンの普及や radiko の登場が、若年層のラジオ聴取行動にどのような影響を与えているのかに着目した。

本研究では、まず文献研究を通じて、日本におけるラジオの歴史の変遷を整理した。かつてラジオは深夜放送や音楽番組を中心に若者文化を形成していたが、テレビやインターネットの普及により、影響力は次第に低下していった。一方で、2010年代以降の radiko をはじめとするインターネットラジオの登場により、時間や場所に縛られない新たな聴取環境が整備されたことに加え、2020年に流行した新型コロナウイルスを契機に多くの若者がラジオに触れるなどラジオは再び変化をしていることが明らかとなった。

次に、若年層のラジオ聴取の実態を把握するため、アンケート調査を実施した。その結果、若年層におけるラジオ聴取は、従来のラジオ受信機ではなく、スマートフォンを用いた利用が中心となっていることが分かった。また、聴取スタイルでは以前の深夜放送ブーム時の勉強しながらリアルタイムで楽しむという体験から、リアルタイム聴取に限らず、タイムフリー機能などを活用し、自身の生活リズムに合わせて柔軟に聴取するスタイルが主流であることが確認された。

さらに、若年層がラジオに興味を持つきっかけとして、好きなアーティストや芸人が出演していることが大きな要因となっていることが明らかになった。これは、情報収集を主目的とするメディアとしてのラジオよりも、エンターテインメントとしての価値が重視されていることを示している。また、パーソナリティのトークやリスナーとの距離感の近さといった、ラジオ特有の親密性が評価されている点も特徴的である。

以上の結果から、若年層のラジオ聴取は、スマートフォンを中心とした時間や場所に縛られない柔軟な聴取スタイルへと変化していることが明らかとなった。また、好きなアーティストや芸人をきっかけに番組へ関心を持つ傾向が強く、ラジオにおけるエンターテインメント性の重要性が再確認された。今後、ラジオが若年層との接点を拡大していくためには、SNS や動画配信サービスとの連動、パーソナリティを軸とした番組作り、さらには radiko など配信サービスの機能やコンテンツの充実が重要となるだろう。

最後に、本研究を通して、ラジオは単なる古いメディアではなく、デジタル社会に適応しながら新たな価値を生み出しているメディアであることが明らかとなった。今後も、メディア環境の変化とともにラジオがどのように変化していくのかを継続的に検討していく必要がある。

